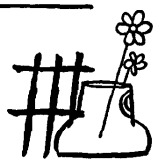
巻頭言



会長就任にあたって

大　野　　豊†

この度，はからずも本学会の会長の重責を担うことになりました．もとより非力の身ですが，学識経験の豊富な両副会長をはじめ理事役員の方々がおられますし，練達の事務局の方々もおられますので，皆さまと協力して本会の発展に尽すことができればと願っております．

私は10年程前に本学会の副会長として学会運営の一端を担っていましたので，しばらくぶりで古巣に帰ったような気がしております．この間，本学会の発展は目覚ましく，数年たらずして会員数3万人を超す大学会になると予想されております．これは，情報技術の急速な進歩と共に，学会の活動領域がますます広がり，多様化してきたこと，学際性や国際化がさらに進展したことなどから，技術者，研究者あるいは社会が本学会に期待するところが大きいからに外ならないと思われます．

本学会はそろそろ30周年記念事業も計画しようかというわけで，歴史的な積み重ねや歴代理事会のご努力のお蔭もあって，その運営は極めて順調に推移しているように見えます．しかしながら，この多様化，国際化の環境の中での学会の急激な発展には，常に新たな課題や問題がおこってまいります．種々の立場の会員から，いろいろな声が聞えてくることも有りうるわけです．最近の理事会では，退任される理事の方々がそれぞれ在任中のご経験などから，申し送り事項を書き残すという大変良い習慣ができております．これを拝見すれば，いま本学会は何をすべきか，何を解決すべきか，一目で理解されます．これらのことを参考にしながら，これからの本学会の課題をいくつか拾い出して気のついたことを述べたいと思います．

まず，基本的な課題として，学会の組織運営のことがあります．本学会は長年つくり上げてきた，しっかりした管理運営の組織があり，これが学会の発展を支えてきたわけです．しかし先述のような多様化，国際化の中の大学会として充分な組織かといえば問題がある，という指摘はすでに多くなされています．今までの組織では，今後，柔軟性と即応性に問題がでてくるというわけです．学会がより一層活発な活動を行うためにはどのような組織運営のあり方がよいか，もっと組織の“柔構造化”が必要ではないか，と考えられます．これは，学会の主要な活動である研究会のあり方や各種委員会のあり方にも関連する重要な検討課題であり，各方面のご意見を伺いながら充分な検討を進めたいと考えております．

国際化対応については，まず国際会議に関わる諸問題があります．私自身，いくつかの国際会議を準備した経験から，学会に対し若干の提言をしたことがあります．現在のわが国の国際的な立場からすれば，外国の学会からの受身でなく，もっと主導的なあるいは自主的な国際会議を行えるようにすべきである．ということです．このためには，いくつかの条件整備が必要です．会議資金をその都度調達するという今までのやり方を見直す必要もあります．このことについては，すでに前任理事会から検討がはじめられておりますので，引き続いて是非具体的な方向を打ち出したいと考えております．

学会の最も大きな行事である年2回の全国大会は，学会の巨大化につれて，多くの問題が生じてきました．どのような大会にしたらよいか，最も早期に解決をしなければなりませんが，会員各位のご意見を広く伺うことも必要かと考えております．

学問分野の多様化にしたがい，近年関連した活動をする学会が増えてきました．それらの学会との関係は協同協調と競争によって相乗効果をもたらすことが必要と考えます．やはり広く各学会との密な話し合いの継続が必要でしょう．

このほか，財務問題，欧文誌の問題，事務の効率化の問題等多くの検討すべき宿題がありますが，紙数の関係で別の機会にゆずり，最後に本学会のさらなる発展のために会員の皆さまのご協力をお願いいたします．

（昭和62年5月20日）

† 本会会長　京都大学工学部